



書評

[評者]

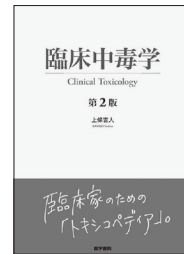
沼澤 聡

昭和大学大学院教授・毒物学

臨床中毒学 第2版

上條 吉人 著

●B5 頁696 2023年11月
定価：14,300円(本体13,000円+税10%)
[ISBN978-4-260-05220-7] 医学書院刊



多くの救急医に好評を博していた上條吉人先生の『臨床中毒学』の改訂版が刊行された。著者は、理学部で化学を専攻したのち医師となったが、当初の専門は精神科であったと聞く。その後、担当患者の死を契機に救急医に転身し、中毒沼にはまっていたとのことである。このような経歴が醸し出す雰囲気は、本書の随所に感じられる。

すなわち、急性中毒治療の原則に「精神科的評価・治療・トリアージ」を含めて5大原則としたこと、各中毒起因物質の説明に薬物の構造や物性、代謝などケミストリーが多く取り上げられていること、「毒のメカニズム」として毒性発現の薬理学的メカニズムを詳細に解説していること、実症例をふんだんに紹介していること、著者自身の撮影による植物・動物を含めた多くの写真など、挙げればきりが無い。

さらに、「ひとことメモ」では、これまでの臨床経験から治療時に注意すべきことや当該薬物の小ネタまで、中毒を理解し他者に重要な点を伝えるうえでとても参考になる。これらが連関して本書の臨場感溢れる雰囲気を作り出している。もちろん、著者

のユニークな経歴だけでなく、個性的な感性も本書に染み出て花を添えていることは言うまでもない。

一方、中毒診療に長年従事した著者ならではの、実臨床で出合う頻度や直感的な毒性の強さをドクロマークの数で示し、混乱した状況でも、最低限押さえておくべき情報を端的に示している。また、「治療のフローチャート」も判断材料が整理され、Yes/Noで瞬時に判断可能となっている。このようにERで活用されることを念頭に置いた作りは、臨床家にとって有用な構成となっている。

また、付録として巻末にまとめられた「近年の中毒トレンド」や「わが国の中毒事件簿」は、捜査機関から多くの相談を受ける著者ならではの具体的な記述となっており、付録ながらこの章だけで新書として上梓できるくらいの内容を備えている。以上のことから、本書は、まさに中毒学のバイブルと言ってよい充実度と完成度であり、中毒の専門家にとどまらず各領域の臨床医や研修医、コメディカル、医療系学生などに広く薦めたいテキストである。